



図3 試験に用いた乗用型防除機

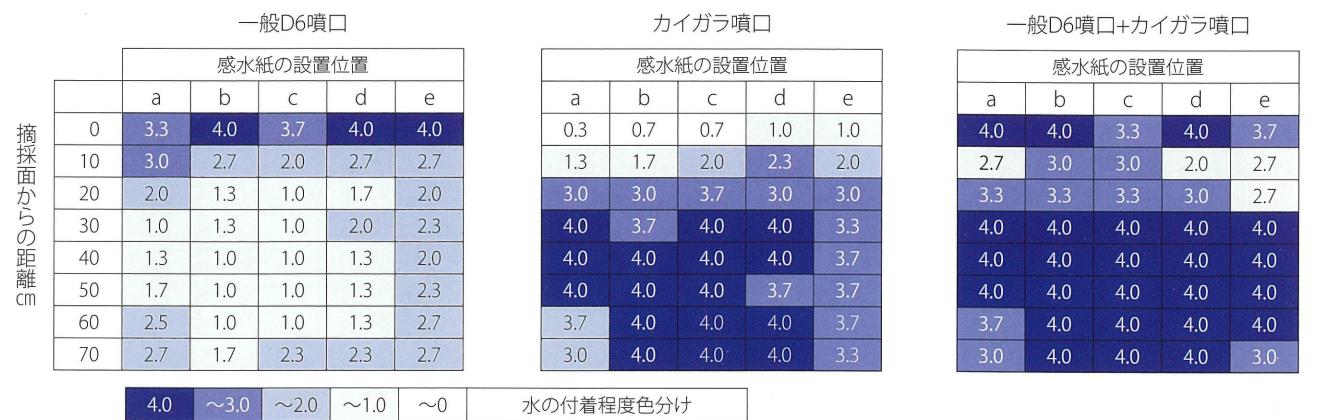


図4 乗用型防除機各噴口の組み合わせの違いによる茶樹幹内の水の平均付着程度 (500L/10a)

注) a左肩部 b左肩部と中央部の間 c中央部 d中央部と右肩部の間 e右肩部

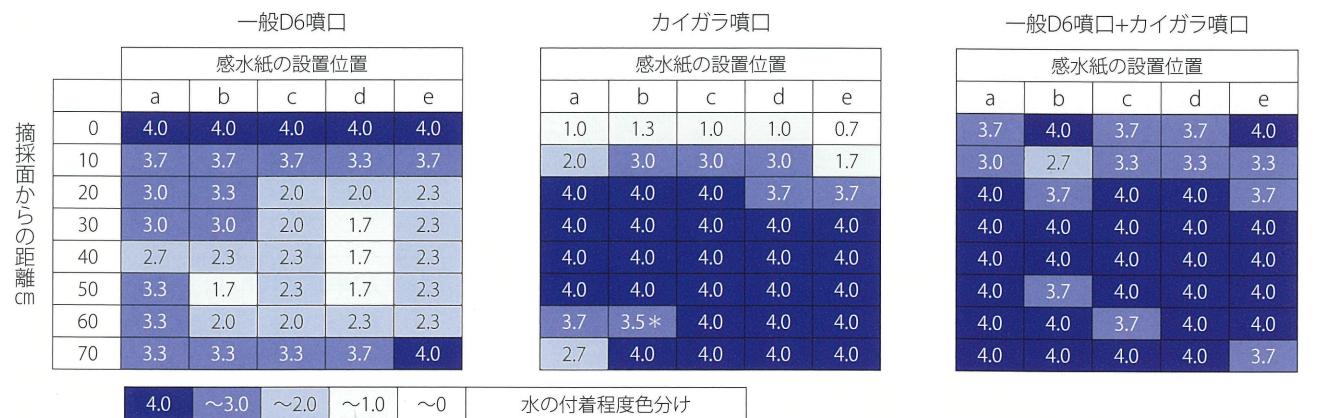


図5 乗用型防除機各噴口の組み合わせの違いによる茶樹幹内の水の平均付着程度 (1000L/10a)

注) a左肩部 b左肩部と中央部の間 c中央部 d中央部と右肩部の間 e右肩部 *の部分は感水紙の一部を紛失

おわりに

クワシロの防除はアルートMC+コルト顆粒水和剤及びアプロードエースフルアブルを使用する場合においては、一般噴口とクワシロ用噴口を併用し、1000L/10a散布することが、ポイントとなります。今回紹介した方法を参考に、効果的な防除を実践していただかよろしくお願いします。

りました。一方、D6噴口+カイガラ噴口では、ほぼ散布むらなく水が付着していました。また、どの噴口の組み合わせでも500L/10a相当量散布した場合は、1000L/10a散布と比較して、散布むらが大きくなりました。以上の結果から、乗用型防除機におけるクワシロ防除においては、D6噴口+カイガラ噴口の組み合わせで1000L/10a散布することにより、茶樹幹内全体に散布むらのない薬剤散布が可能となるされました。

菊川市倉沢1706-11
静岡県農林技術研究所
茶業研究センター
茶環境適応技術科

E5-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp



静岡県農林技術研究所
茶業研究センター
茶環境適応技術科 研究員
吉田達也

クワシロカイガラムシの効果的な防除法

1 はじめに

クワシロカイガラムシ(以下、クワシロ)はチャの重要な害虫で、新芽の生育不良や株または枝の枯死を引き起こします。ここ数年、茶生産者から、クワシロの多発と防除法について相談が多く寄せられるようになりました。ここでは、クワシロ防除の基本について、使用する薬剤別に説明します。

また、近年、生産現場では乗用型防除機の普及が進んでおり、クワシロの防除剤の散布に使用されるケースも増えています。当センターでは、クワシロ防除を想定した場合の、乗用型防除機による効果的な薬剤散布方法を検討したので、この試験結果についても、簡単に紹介します。

2 クワシロ防除の基礎知識

(1) プルートMCによる防除
MCは殺虫効果が長続きするという特性があります。1ヶ月の間に散布すると、その後の5月、7月及び9月頃に発生する本種の幼虫に作用するため、適期を逃さず、確実な防除が行えます。ただし、本剤は浸透移行性がない、薬液が付着した枝に新たに寄生したクワシロ幼虫にのみ殺虫効果が現れます。また、茶樹は複雑な樹幹構造をしており(図1)、樹の奥に寄生する



図1 複雑な樹幹構造をした茶樹

クワシロにまで薬液を到達させる必要があります。このため、本剤を使用する場合には、「散布むらをなくす」という防除の重要なポイントとなります。
静岡県では年3回、5月、7月及び9月頃にクワシロの幼虫が孵化します。プルートMC以外のクワシロ剤(コルト顆粒水和剤やアプロードエースフルアブルなど)ではこの時期に発生する1歳幼虫(図2)を防除対象として半数孵化卵塊(1個体の雌成虫が抱えた卵の50%以上が孵化した卵塊)が60%80%となつたときを日安に薬剤散布を行います。コルト顆粒水和剤やアプロードエースフルアブルを使用する場

合は、まずは、「防除適期に薬剤を散布する」とが防除の重要なポイントとなります。
防除適期の判断は、静岡県病害虫防除適期の予測 (<https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujohp/>) を参照してください。
またこの場合も、散布むらなく薬液を処理することが重要です。



図2 防除対象のクワシロ1歳幼虫

3 乗用型防除機を使用したクワシロ剤散布方法の検討

クワシロ防除を想定して乗用型防除機を使用した薬剤散布方法を検討している「アメダスデータ」を利用し防除適期の予測 (<https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujohp/>) を参照してください。
またこの場合も、散布むらなく薬液を処理することが重要です。

る」とが防除の重要なポイントとなります。

防除所のウェブサイトで随時、情報提供している「アメダスデータ」を利用し防除適期の予測 (<https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujohp/>) を参照してください。

またこの場合も、散布むらなく薬液を処理することが重要です。